

◆ 私たちが取り組むのは、「つながりで“元気”“安心”のまちづくり」です ◆

【事業の目標】

- いつまでも元気に暮らしたいというシニアの願いを実現していく地域づくり！
- ひとり暮らしになっても、身寄りがなくても、認知症になっても、病気になっても、介護が必要になっても、安心して暮らし続けられる地域づくり！

- ★ 趣味やスポーツをはじめいろいろな地縁組織に参加している人が多いまちは、認知症、転倒、うつになるリスク、さらには要介護認定率まで低いことがわかってきました。食事や健康に気をつけていても、社会との交流がなければ健康寿命を延ばせません。人口や年齢構成が類似している地域であっても要介護認定率等に格差が生じるのには、地域の「団結力」や「まとまり力」が大きく影響していることもわかってきました。

【事業の目的】

- 社会的孤立や孤独に向き合い、「社会的つながりが弱い人」に着目し、違いを認め合い、相互に支え合うことができる関係性をつくります。
- 高齢者がさまざまなサービスや活動につながりやすく、助けを求めやすい環境をつくります。
- 本人の希望に即して自主的な選択ができるサービスや活動の幅を広げ、支援する側がスムーズな連携を図り柔軟に対応できる体制をつくります。

- ★ 「話せてほっとした」「わかってもらえた」「共感してもらえと思った」「ひとりじゃないと思えた」と感じられると、人は困難に耐えて待つゆとりや、前に進んでいく勇気が湧いてきます。この取組みのなかで、地域がもつ「人薬（ひとぐすり）」の効能を高めます。
 - ☆ コロナ疲れの対処法をご存じですか。それは、“質の良い睡眠”、“普段と同じくらいの運動”。そして何よりも大事なのが“人とのつながりの継続”です。
 - ☆ アルツハイマー型認知症の予防術をご存じですか。やらない人より3倍なりにくくする予防術は“運動をすること”、6倍なりにくくする予防術は“生活習慣病にならない食事を心がけること”。そして、8倍なりにくくする予防術が“話し相手をもつこと”です。

【事業の進め方】

- 地域福祉を進める「社会福祉協議会」と、よろず相談のワンストップの窓口である「フェリスター株式会社」の医療ソーシャルワーカーが中心となって取り組みます。そして、24時間365日の在宅診療を行う「がんクリニック」、「麻生介護サービス」をはじめとする介護事業所、「大賀薬局」・「豆の力屋」（移動販売）・「日新システムズ」（情報通信機器開発）などの企業がこの取組みを支えます。さらには、福岡大学医学部看護学科の馬場みちえ先生から事業に対する評価や助言をいただきます。
- この取組みでは、一人暮らし高齢者宅等への「いつでもボタン」（情報通信機器）の設置をお願いします板付校区と板付北校区の社会福祉協議会、民生委員、自治会・町内会の方々との連携が特に重要です。自分ひとりの自立ではなく、自分以外の人と共に生きていくことそのものを支援する「共生支援」と、「つながりの場としての地域づくり」が地域福祉活動の基盤をなします。

- ★ 取組みのなかで、縁（えん）と縁（えにし）と縁（よすが）をつくり、つながることの可能性をとことん追求します。出会い（縁）を大切にし、（えん）を結べば（えにし）になります。（えにし）はやがて（よすが）となり、暮らしを支える拠り所となります。縁（えん）は大きな力の源になり、縁（えにし）は可能性を広げます。そして、縁（よすが）は暮らしの基盤を強固にします。
- ★ 個人が抱える生活上の困難を社会が支援し解決を図るシステムと良い人間関係は、人々の健康保持に大きく貢献します。